

様式3

技術開発完了報告

秋田営林局
小国営林署

課題名	天然林保育作業法				
継続・自主 区分	完了	開発 期間	S58~H2	担当	造林係
目標	天然林保育作業として、刈り10m、残置中5mで実行したが、実行後残置区に対し、側方より相当量の陽光の侵入が見つけられることから、刈り10m、残置中10mとする作業方法の確立が図れないかを考察するものである。また将来の投資効率上、有効な残置中決定の目安とするものである。				
結果	根元径成長は刈り区が良好であるが、刈り区、残置区ともに野兎の喰害が多く樹高成長の優劣は判定できない。このことからこの刈り方法の適否、野兎の喰害防止方法の解明が課題として残る。他署の試験地でも同様な内容が報告されており、野兎害も含めて天然林保育作業の推進上重要な課題である。		技術開発経費内訳		
開発経過と調査内容 1. S58年度試験地設定 2. S58~H2. ブナ種幼樹の成長量調査 3. S59. 照度調査					

相対照度 (地際より1.2mで測定)

区分	刈り区	残置区				
		1m	2m	3m	4m	5m
照度	100%	22%	20%	20%	16%	11%

成長量調査

区分	S58測定値		H2測定値		総成長量		
	根元径 cm	樹高 cm	根元径 cm	樹高 cm	根元径 cm	樹高 cm	
刈り区	2.7	253	5.5	391	2.6	126	
残置区	1m	2.1	181	3.6	300	1.5	109
	2m	3.1	223	4.6	327	1.4	87
	3m	3.1	264	5.3	380	1.9	108
	4m	2.1	162	2.5	214	0.8	60
	5m	3.0	247	4.6	347	1.6	100
	残置区計	2.6	216	4.9	313	1.5	96

野兎喰害による成長阻害率

刈り区 (本数比率)	71%
残置区 ()	79%